

子どもは未来をつかみたい



『ぼくはどこへ行くの?』(2004年4月出版)より 絵:やべみつり

2003年度 年次報告書

2003年7月1日 - 2004年6月30日

2004年度 年次計画書

目次

2003年度 事業報告

この1年	1
出版プロジェクト	2
読書推進運動	3
子ども文化センター	5
国内事業	6
組織運営	7
2003年度 会計報告	9
2004年度 事業計画	10
2004年度 収支予算	12
2004-2006中期三か年計画	13

特定非営利活動法人 **ラオスのこども**

ASPBラオスの子どもに絵本を送る会から、特定非営利活動法人ラオスのこどもへ。任意団体から法人へ。

私たちにとり、この一年は、識字分野を中心とした「絵本を送る会」から、今のラオスのこどもが抱える問題を包括的に考えていく組織への脱皮の年でした。さらに、計画とルールに基づく組織運営へと、転換を図る年でもありました。

またJICAとの開発パートナー事業の開始に伴う、膨大な事務量の増加に振り回された一年でもありました。開発パートナー事業の内容自体は、これまで積み重ねてきた事業を統合し発展させたものですが、事務量はかなり増えました。特に文書としてまとめ、報告する業務が増え、なかなか新しい仕事に取り組む余裕ができませんでした。

そのような状況の中、ボランティアの活躍が今年も目立ちました。国内イベントは昨年に引き続き、ボランティア主導で実施することが多く、新しい参加者も目立ちました。法人化の中で確認された、開かれた組織として運営を行っていく方針から、会の運営の基本である中期計画の評価、新計画策定のための2回にわたる合宿にも、多くの参加者があり、状況の共有化と様々な意見の反映ができました。

ラオスからの情報量も大変増えた年でした。10年ぶりに日本人スタッフをヴィエンチャン事務所に駐在させることにより、業務報告を超えて「ラオスの今」がよりきめ細かく東京に伝わるようになりました。さらに、ラオス事務所の充実により、ラオスでの資金調達も、昨年に引き続き増加していることも、特記されます。

もう一つ加えるべきことは、ラオス社会の変化がどんどん早く、激しくなっていることです。社会の開放が進み、農村部と都市部では生活環境が大きく違うようになってきています。ラオスのこどもたちの問題も、かつての「教育に触れることができない」という、農村型の構造から、都市部を中心に、「非行」「学校を出ても仕事が無い」など都市型の問題をも含むものに変化しています。

「ラオスのこども」への名称変更と時を同じくして、私たちは、こうした子どもの問題の変化にどう対応するかを問われ始めたのです。

今年6月の合宿では、「現地化とは何か？」が討議されました。私たちは、いつまで支援をおこなうのか。次期中期計画を策定する中で、現地化、プロジェクトの終わりをどのようにイメージにするか、などが話しあわれました。

本年度の事業計画では、「ラオスでは、ラオス人主体の持続的な事業運営に向け、プロジェクト運営、資金調達の現地化のため、人材の能力向上、運営主体の強化をめざします。」とたっています。この一言一言を、観念としてでなく、具体として組み立ててゆかねばなりません。話し合いで、次の次(第4次中期計画)、あるいはその次の第5中期計画の中で、結果が明らかになるような計画の立て方にするという合意がなされました。第3次中期計画では、資金調達、プロジェクト運営、組織運営の現地化に向けて、どのようなステップを積み上げてゆくのか、指標を明確にすることで、これまでより詳細な計画案を作成しました。

各頁の写真解説

- P. 2 03年の紙芝居コンクール子どもの部最優秀作品『だれの仕事?』原画
 - P. 3 学校図書室の開設式に集まった生徒たち(03年12月 ルアンパバン民族学校)
 - P. 4 教員養成校の読書推進セミナーで絵本について話す講師
 - P. 5 ルアンパバン子ども文化センターの踊りの教室
 - P. 6 ラオス語絵本プロジェクトに取り組むボランティア
 - P. 8 ラオス事務所でのスタッフミーティングの様子
 - P. 12 ラオス事務所スタッフの面々(右からブアカオ、ヴィライポーン、バンオーン、ボーケオ、スッター、チャンシー、所長のソンペット)
-

出版プロジェクト

この1年

- 出版委員会は5人体制に。内1名は専従
- 絵本は計画より多く、9作品52,900冊を出版
- 03年の絵本コンクール入選作を出版
- 環境教育の絵本が完成
- 通算100作・総部数約50万冊となる
- 紙芝居は4作品を出版

■出版委員会

今ラオスの子どもたちに必要な本は何かを考え、作品の選定、編集、出版を手がける委員会です。2000年に活動を始めて以来、出版作品の多様性が増し、企画から印刷までの時間が短縮され、年間に出版タイトルが増えるといった成果が出ています。

出版方針

これまで、どのような分野の本をどの程度出版するかといった方針はなく、事前に会の事業計画との調整ができていませんでした。今年度は、次期中期三か年計画策定に向けて、次のような目標を設定しました。

- ・年間8作品を出版する。
- ・読者の年齢層を意識した本づくりを行う。
- ・コミックなど、娯楽性のある本の出版を準備する。
- ・質の高い翻訳図書を出版する。

タイ研修(JICA開発パートナー事業) 8月

隣国タイの子どもの本づくりから学ぶため、6日間の研修を行いました。出版委員会メンバー3名、挿絵画家、当会スタッフの計5名が参加。タイの出版関係者たちと話しあう中で、タイでも質の高い子どもの本の出版は困難であること、その中で高い理想を求め続ける作り手たちから大きな刺激を受けました。

増員と準専従化

委員会メンバーは、これまでのドゥアンドゥアンさん、ブントアンさん、オートーンさん(いずれも作家)に加え、6月から情報文化省出版局職員のカビンさん、作家のブンルートさんの2名が加わり、計5名となりました。ブンルートさんは委員会の準専従としてラオス事務所に勤務し、今後の出版業務を担当します。

■出版作品(作品名/著者/出版部数/主な支援者)

絵本

創作

- 『みずのぼうけん』 幸路春人(文・絵) パリマ(訳) 5200部 ミクプランニング
- 『お空にいちばん近い森』 山本芳法(文) 岩崎かすみ(絵) パリマ(訳) 5200部 ミクプランニング
- 『孤児とその妻』 ドゥアントゥアン(文) ウォンサヴァン(絵) 5000部 JICA
- 『ぼくはどこへいくの?』 やべみつのり(絵と文) 森透(文) チャンタソン(訳) 13500部 ラオスに環境の絵本を送る会 東京都民間国際事業助成金

絵本コンクール入選作

- 『マニユイとチャンタイ』 シーナイ(文) カムソン(絵) 5000部 JICA
- 『菓草売り』(民話短編集) マニホーン他2名(文) トゥアンパチャン他2名(絵) 5000部 沖電気工業

再版絵本

- 文字絵本『なんのどうぶつ?』1 トゥアントゥアン(文) ケオ他6名(絵) 6000部 日本国際協力財団
- 文字絵本『なんのどうぶつ?』2 トゥアントゥアン(文) ケオ他6名(絵) 6000部 日本国際協力財団

翻訳絵本

- 『おやゆび小僧』 ペロー(文) シッコ(絵と訳) 1000部 フランス語協力センター 自己資金



紙芝居

紙芝居コンクール入賞作品

- 『だれの仕事?』 センチャン(文・絵) 1000部 キッコーマン 連合
- 『誰の穴かな』 コンサワン(文・絵) 1000部 キヤノン 保健衛生教材(出版委員会メンバーが編集協力)
- 『きたない水』 ロングマンの翻訳版 ティンカム(絵) 300部 自己資金
- 『チョーおじさんの子育て』 ロングマンの翻訳版 スッサダー(絵) 300部 自己資金

読書推進運動

この1年

- JICAとの開発パートナー事業が本格化
- 図書箱・図書袋の配付は計画通り実行
- 読書推進運動の自立を目指し、人材育成を継続
- ラオス各機関が積極的に協力態勢を整備
- 増大する図書補充対象への対応が課題

本を読む環境の整備

■ 図書箱・図書袋の配付（開発パートナー事業）

2005年11月までの3年間の開発パートナー事業の折り返し点にあたる今年度は、計画通りに以下の事業を実施することができました。

図書の配付（新規）

図書箱 270箱、図書袋 180袋を製作。セコン、ボーケオ、カンムワン、ヴィエンチャンの各県およびヴィエンチャン都の計5ヶ所で各3日間の配付セミナーを行い、360校の小学校に図書を配付しました（図書袋は1校につき2袋ずつ配付）。

図書の補充

これまでに図書箱、図書袋を配付済の354校を対象に、カンムワン、ヴィエンチャン、チャンパサック、フアパンの各県およびヴィエンチャン都の5か所で各2～3日間のフォローアップセミナーを実施し、図書の補充を行いました。

利用状況調査

図書の補充の際、教育指導官、校長、図書担当教員へのインタビューを通して、読書推進活動の実施状況や現場での問題点などを把握。図書配付によって子ども、教員、地域住民にどのような変化があったかを聞き取り調査しました。



■ 開発パートナー事業中間評価（2004年5月）

中間評価は、プロジェクトの進捗状況を確認し、問題点を洗い出し、後半の活動につなげることが目的です。本会とJICAと共同で、ヴィエンチャン県、カンムアン県の4郡の教育局および学校6校で実地調査を行い、プロジェクトの妥当性、効率性、自立発展性等のポイントで評価を行いました。

この調査で明らかになったことは、第一に多くの先生・生徒が図書管理に参加することで成果を上げているということ。第二に、教育指導官が担当地域の学校の図書活用状況をフォローし、読書推進活動を指導することが、このプロジェクトの発展のカギとなることです。

その後、関係者でワークショップ形式で評価を行い、読書推進運動が抱える問題を抽出、今後1年半の活動計画を策定しました。

この過程で、読書推進運動の課題をラオス人関係者自身の手で整理し、共有化できたことは特筆すべきことと言えます。

■ 開発パートナー事業の終了後に向けて

これまで10年間をかけ、約2032校へ図書箱・図書袋を配付してきました。開発パートナー事業として、この図書配付はもう一年継続されます。その後、会はいつまで、どこまで、配付を行うのかという問題が浮上しています。

新規配付を継続することは可能ですが、その分、図書補充の対象もどんどん増えていきます。東京事務所は、現在の会の能力では、これ以上の配付拡大は困難で、限度を設定するべきだとの考えでした。これに対しラオス事務所は「本に触れる機会がない学校はまだ数多くあり、活動に熱心な学校への図書配付は止めるべきでない」との意見です。現場をよく知るラオス側から、箱や袋といった用具は学校側に用意してもらい、会は本だけを配れば、コストが低く抑えられ、読書推進運動は継続できる、というアイデアが出されました。第3期中期三か年計画では、ラオス側の意見を取り入れ、コストダウンと内容のスリム化を図り、新規配付を継続します。

■ 学校図書室（ハクアーン）整備

児童・生徒数が多い比較的都市部の小中高等学校で、空き教室を利用して、図書と読書用の机や椅子などを整備、読書推進活動のノウハウを提供する事業。

数多い開設希望の中から、熱心な先生がいるなど、学校の状況を調査し、条件の整った学校を選んで開設します。(ハクアーン=「愛読」という意味のラオス語)

新規開設

今年度はハクアーン87から100まで、新たに14校に開設することができました。

内訳:小学校 4校、 中学高校 7校

民族学校 2校、 地域図書館 1館

民族学校とは、少数民族の学生たちが通う寄宿舎付きの中高校です。今年度の開設で、全国8か所の全ての民族学校に図書室ができました。

今年度の事業で、会の支援による学校図書室は全国で100か所となりました。

図書補充

読書活動の活性化と定着のため、新規開設の翌年から毎年図書を補充しています。今年度は、既設87校に補充を行いました。

他団体との協働の模索

学校図書室「ハクアーン」の活動に対し、他のNGOや外国政府からの関心が高まっています。地域開発や学校建設などの事業に学校図書室の活動を組み込んで、会と協働実施できないか、との相談や依頼があります。

オーストラリア大使館 豊島福祉基金

ベルマーク教育助成財団

三井住友銀行ボランティア基金 村井浩

自立へ向けた人材育成

■教員養成校での「読書推進セミナー」と「講師養成」

99年からラオス全国8か所全ての教員養成学校で「読書推進セミナー」を開き、全ての卒業生が読書推進を理解し、ノウハウと意欲を携えて各地の学校に着任する仕組みづくりに取り組んでいます。

学生を対象としたセミナーは12～1月に各校で集中講義形式で各4日間実施。これと並行して、各校の読書推進講座の講師を養成するセミナーを8月にヴィエンチャン都で6日間開催し、全国の教員養成校から担当教員計53名が参加しました。このセミナーは「人材育成の自立化」つまり人材を育成する人の養成が目的です。

評価会議(3月)

教員養成校での読書推進講座が教員養成課程の正カリキュラムとなるよう、会から教育省に働きかけた結果、正式導入が決定されましたが、時期や方法は未定です。この会議での報告で、いくつかの教員養成校では、独自の工夫で時間枠を確保し、準カリキュラムのような形で既に実施していることがわかりました。また、今回作成した学生指導用のハンドブックに分かりにくい点があるなど問題点が指摘され、講師自身の手で使いやすいものに改訂することが決まりました。

今井記念海外協力基金 国際開発救援財団



普及・啓発活動

■読書啓蒙雑誌発行

出版委員会が中心となり発行を継続する計画でしたが、内容の充実を図るため編集作業が遅れ、年度内の発行ができませんでした。

特定受託事業

- GAPE(カナダのNGO)の依頼によりチャンパサック県にて学校図書室を開設
- CANADA FUND(カナダ政府機関)の依頼によりボリカムサイ県にて学校図書室開設事業をスタート(開設は次年度)
- 石原奨学金:教員養成校の学生に奨学金支給

2003年度活動状況



子ども文化センター（CCC）

この1年

- 1都3県の8館の運営を支援
- 自立へ向けた資金低減方針を継続
- 薬物汚染・非行などの増加から、子どもの健全育成の場としてCCCへの注目が高まる
- ヴィエンチャンで教育活動開発センターの設立へ向け施設の建設がスタート



■広がり と 定着

1994年に開設された子ども文化センター活動も10年目をむかえ、大きな広がりを見せています。数年前、情報文化省大衆文化局のなかにセンター担当ができたことで、活動が全国13県20か所に広がっています。

そのうち、会はヴィエンチャン、ボリカムサイ、サイヤブリ、ルアンパビン、ゲンタオ（サイヤブリ県）、シーサタナークの6ヶ所のセンターに加え、今年からサイヤブリ県のボーテン、パクライの小規模CCC 2ヶ所を支援することになりました。

■青少年ボランティア活動の定着

各センターでは、絵画・伝統音楽・伝統舞踊・歌・ゲーム・編み物・織物・英語・演劇・木彫・工作・粘土・人形劇・スポーツ・料理・彫刻・詩・読み聞かせなどの講座が開かれています。活動は中学生までの子どもたちが参加していますが、卒業した子どもたちが、年下の子どもたちの活動をサポートしたり、郊外の学校へキャラバンを組んで出かけ、センター活動を広げる役割を自発的に行う動きも、各センターで定着してきました。

■全国フェスティバル

1月にはカンムワン県で全国子ども文化センターフェスティバルが開催され、各CCCから代表の子どもたちが参加し、交流を深めました。このフェスティバルには、CCC活動の各地への普及、啓発の意味もあります。

■日本のコンクールへの応募

日ごろの活動の成果を発表する意味もあり、今年も日本の紙芝居や絵画のコンクールに多数の作品を応募、受賞が相継ぎました。世界子ども愛樹祭コンクールでは、ルアンパビンCCCの子ども作品が大賞を受賞し、表彰式に招かれました。

国際ボランティア貯金 ミケプランニング
三井住友銀行ボランティア基金 指定募金

■ラオス社会の変化とCCCへの期待

近年、ラオスの子どもを取り巻く環境が急激に変化し、都市部の子どもの中には、薬物汚染や非行が見られるようになってきました。こうした問題に伴い「子どもの安全な居場所」としてCCCへの注目が高まってきました。活動に参加することで子どもたちが犯罪の危険や非行に近寄らずに済んでいる、との評価です。今後、会やCCCは「子どもを守る」という役割を意識し、ラオスの様々な環境にある子どもたちを注視していく必要があります。また、子どもたちバランスのとれた健全な成長の助けとなる活動として、スポーツなど体を動かす活動の充実が求められます。

■自立へ向けた取り組み

本会からのCCC運営への支援額は原則増加させない方針です。一方でCCC活動の全国的な広がりがあり、新しい活動を育てたいという先輩格のCCC館長たちの意見もあります。そこで、新設センターを支援する場合は、既設センターへの支援額を減らして充当することが合意されています。そのため、大きなセンターでは積極的に資金源の多様化を図っています。ただし、本会の立場から見ると、支援額の減少は、関与度の低下につながり、理念の共有などの面で不安材料もあります。

■教育活動開発センターの建設

04年4月、ヴィエンチャン市教育委員会による新しいタイプの子ども文化センターの建設が始まりました。これまでの子ども文化センターは、子どものための施設でしたが、この施設は教員の再研修の拠点としても機能します。教員研修の一環として、子どもたちとの接し方、読書推進活動の展開の仕方などを実践的に学べる「現場」つまりCCC的な活動の場が併設されます。このセンターから、ラオスの学校教育の新しい発展が期待されます。

NGO支援無償資金協力

国内事業

■広報

ロゴデザイン

会の名称変更に伴い、ロゴを新しくデザインしました。マークはこれまでのものを継続して使用します。

ニュースレター

発行頻度を年4回から、4・7・11月の3回に変更。B5の版型をA4に変え、情報量を増やすとともに、誌面デザインをリニューアルしました。ラオスからの発信を増やすという方針も決まりました。印刷部数：各回約2,200部
※ロゴとニュースレターは日本デザイナー学院グラフィック科研究科の学生たちの協力でデザインされました。

ホームページ

ボランティアの協力により、コンスタントな更新を行うことができました。月間アクセス数：約 900件



■イベント

自主開催と、他団体主催イベントへの参加と、2つの形態がありますが、今年度の30件ほどのイベントの内、大部分が外部への参加でした。特に企業主催イベントへの協力が急激に増加しています。

その一方で現地活動報告会など、支援者に現状を伝える機会を作ることができませんでした。限られた人員態勢の中で、イベントにどのような戦略をもって取り組むのか、検討する時期に入っています。

会の関係するイベントは「食」をテーマにしたものが多いのが特徴です。こうしたイベントでは普段なじみがないラオス料理を通じて、ラオスの文化を伝える意味は大きいと言えます。

イベントスタッフとして活動したボランティアは201名、内47名がラオス人留学生でした。

■ラオス語絵本プロジェクト

前身の「絵本2000冊運動」が3年がかりで目標の2000冊を達成したのを機に、名称を変更。学校単位での参加も含め、継続的な参加者が増え、今年度ラオスに送られた絵本は1086冊となりました。絵本は各地の学校図書室などで大事に読まれています。

現在約90種類の絵本に訳文が用意されていますが、訳文の整備を始めて10年が経過し、一度翻訳を再点検する必要があると考えています。

■書き損じハガキ収集キャンペーン

他団体に比べて取り組みが遅れていた、書き損じハガキ収集活動ですが、年末年始を中心に多くのみなさんが協力してくださいました。1年で計147件、50円の書き損じハガキ換算6892枚、約31万円分。これは絵本980冊のご支援に相当します。

■インターン受入

大学の依頼により、インターン1名を2ヶ月（活動11日間）受け入れました。資料の準備、入力作業などの日常業務から、イベントの運営まで、様々な仕事をしてもらいました。

■修学旅行受入

東京事務所に中学校、高校から、修学旅行の一環として生徒を訪問させたいという希望が増加しています。国際協力への入口として、興味をもってもらえるよう対応していますが、学校側が安易に受入を依頼してくる傾向も見られます。今後は一定の受け入れ基準を設けることを検討しています。

■ネットワーク活動

NGO全体の能力向上を目指す活動に、以下のように関わりました。ネットワークが広がるとともに、活動の質の向上にも結びついています。

国際協力NGOセンター理事（チャンタソン／共同代表）

外務省NGO研究会（森 透／共同代表）

教育協力NGOネットワーク研究会（森 透／共同代表）

JANIC-UNICEF「南」の子ども支援NGO能力強化委員会（野口朝夫／事務局長）

「南」の子ども支援NGOネットワーク（野口朝夫／事務局長）

組織運営

この1年

- 法人化後、初めての事業年度
 - 経営強化と参加拡大の両立を目指した
 - 文書化により運営の透明性を増すよう努力
 - 会員数は伸びず
 - ボランティアのイニシアチブがイベントで顕著
 - 運営意思決定へラオス事務所の参画拡大
-

全体運営

■理事会

計12回開かれ、運営に関する討議と意思決定を行いました。法人化に伴うルール作り、中期計画の策定などが年間を通じたテーマでした。

■会員

年度末での会員数は活動会員34名、賛助会員192名(内団体8)です。法人化以前は、年間のべ300名ほどの方のご協力がありましたが、入会登録の働きかけ不足からか、十分な水準には達していません。

■運営会議

計11回開かれ、会員やボランティアが参加し、情報共有と意見交換、理事会への提案等を行いました。会場を事務所から駅前の公共施設に移し、議題の事前通知や司会の明確化など運営の改善を行いました。

■2002年度通常総会

8月17日、ライフコミュニティ西馬込にて開催。社員(活動会員)23名と賛助会員4名が出席しました。2002年度(03年5月8日～6月30日)事業・会計報告が全会一致で承認され、2003年度事業計画・予算が理事会より報告されました。また2003年度役員として理事6名を承認し、監事2名を選任しました。総会後の意見交換では団体としての「意見表明」に関する議論が行われ、ラオスや活動領域に関わることは必要に応じて社会的発言をしていくことが合意されました。

■合宿

第2期中期三か年計画の終了にあたっての事業評価および、第3期中期三か年計画策定のため、2回の合宿を実施。理事、スタッフ、会員、ボランティアが参加して問題点や方向性、目標の共有化を図りました。

03年9月27～28日 大田区平和島ユースセンター 15名参加

04年6月5日 ライフコミュニティ西馬込 18名参加

■第3期中期三か年計画

2004年度よりスタートする第3期中期三か年計画は、事業の「自立化」と運営の「現地化」へ向けた道筋づくりの期間とし、予算枠組は年間4500万円規模と設定しました。

■ラオス事務所の参画

組織運営の強化および将来の「現地化」への取り組みの一環として、ラオス事務所からの意見を積極的に採用。より主体的に、実現可能性を踏まえた具体的な意見が出されるようになり、次期中期計画も、プロジェクトにラオス事務所の意見を取り入れて変更しました。会の目指す方向の共有化が進んだ成果と言えます。

東京事務所

■体制

専従職員2人(有給)＋常勤非専従事務局長(無給)による運営。業務量の増大に比べ、事務局の体制は十分とはいえず、過重な労働が続きました。こうした業務体制の補強のため、5月から元スタッフ小川直美が1年契約で復帰。一方、1年半にわたり国内業務を担当してきた藤沢佳代が6月末に退職しました。法人化に伴い職員の社会保険を完備。また、職員的能力強化のため人事考課を導入し、年間目標設定と成果をもとに評価を行うことにしました。

■資金調達

この一年の個人の方からのご寄付は約300件。長期的に続いている個人寄付の件数の減少、減額傾向に歯止めをかけることはできていません。特に、永年の支援者の高齢化に伴う支援の先細り傾向は顕著となっています。法人化のためにエネルギーが集中したこともありますが、運営上重要なことが積み残されたことは大きな問題です。支援者に対しても十分な満足を提供できていないと認識しています。

一方、企業、助成団体、政府資金からのプロジェクト支援は堅調に推移。JICA開発パートナー事業により多額の資金が投入されました。助成団体の資金については、継続していただくことが多いのですが、

事業の成果報告を充実させていく努力が必要です。企業からのご支援には、資金面だけでなく、社員の方の活動参加という面でも期待があります。

■ボランティア

積極的なボランティアは約25名と増加し、幅広い年齢層の方が参加しています。夏の麻布十番納涼祭国際バザール、秋の各種イベント、冬の札幌屋台村、春の正月パーティーと、多くのイベントがボランティアの企画、主導で行われました。その他、有志による現地ツアー、ラオス語勉強会など自主的な活動が行われました。ラオス人留学生の活動参加も多く、日本人ボランティアとの交流により、会の特徴となっています。

ラオス事務所

■体制

ソンペットを所長として、ラオス人スタッフ7名、アルバイト1名、日本人駐在1名体制で運営。スタッフ一人一人の担当、責任が徐々にはっきりしてきており、意欲的な取り組みにより、業務の質が向上しています。ただし、開発パートナーの実施に伴い、地方出張が非常に増えており、調整の必要が出ています。またそれぞれの能力をより向上させるために、適切な研修の機会を提供することも必要となってきました。

東京事務所だけでなく、ラオス事務所においても「運営ルール」を文書化する準備を始めています。

計画されていた副所長の雇用は、適切な人材が見つからず、達成できませんでした。

■資金調達

本の出版や、配付プロジェクトに対し、カナダファンド、フランス語協力センター、オーストラリア大使館、GAPEなど外国政府機関、NGOなどからの資金提供を受けました。現地資金調達量は着実に増加しており、今後の現地化へ向けての大きな一歩と言えます。

■広報

日本や欧米の団体からの問い合わせ、来訪者の増加に対応し、プロジェクト別説明資料、年間活動報告書など、日本語・英語の広報資料を整備しました。

ラオスで活動する国際NGOを紹介するホームページ

が立ち上がり、本会も3月に加入しましたが、会の紹介内容はまだ準備中です。

■イベント

5/11 JICA-Netラオス日本小学生交流

5/28-6/1 「子どもの日」週間のイベントに出展

6/1 ヴィエンチャン都主催「子どもの日」行事に参加

■インターン受入

初めて、3名のインターンを受け入れました。

7/26～8/5(10日間) 子どもの実態調査及び英文資料整理などの活動に従事

7/23～8/27(1ヶ月間) 子どもの実態調査、読書推進活動のデータ集計と分析などの活動に従事(JICAインターンシッププログラム/NGO体験プログラム)

9/11～19(9日間) 子ども文化センターの活動調査、資料整理、紙芝居コンクール作品応募準備などの活動に従事(JANIC-UNICEF「南」の子ども支援NGO能力強化プログラム)



■対外活動

ラオスで活動する日本のNGOの月例ミーティング(JANM)に出席(近藤知子/ラオス駐在)

WHOとUNICEFによる小学校用保健教育教材の開発にアドバイザーとして参画(ソンペット/所長)

■建物改修

ラオス事務所が入居中の建物が老朽化し、03年12月から04年3月にかけて改修工事を行いました。1階子ども文庫の快適性が増した他、図書保管庫、配付準備作業場なども安全に作業できるようになりました。

外務省国際開発協力関係民間公益団体補助事業

2003年度 会計報告

第2期 2003年7月1日～2004年6月30日

(単位:円)

特定非営利活動法人 ラオスのこども

I 収入の部

科 目	内 訳	金 額
会費・寄付金		7,093,354
	一般寄付金	2,427,012
	活動会員年会費	52,294
	指定募金	4,614,048
助成金・補助金		49,697,638
	民間一般助成金	7,862,820
	政府系補助金・助成金	29,515,707
	補助金・助成金(現地受取)	12,319,111
その他		7,874,483
	交流広報事業による収入	3,247,366
	「ASPB ラオスの子どもに絵本を送る会」からの事業継承収入	4,068,074
	雑収入	559,043
当期収入合計		64,665,475
前期繰越収支差額		5,305,582
収入合計		69,971,057

II 支出の部

科 目	内 訳	金 額
事業費		47,614,726
	出版事業費	4,331,550
	読書推進事業費	38,062,131
	子ども文化センター支援事業費	2,755,997
	交流広報事業	2,465,048
管理費		7,994,242
	東京事務所経費	6,773,717
	家賃・水道光熱費	558,000
	通信費・運搬費	171,645
	事務費・記録費	216,241
	人件費・交通費	5,370,358
	備品消耗品費	112,245
	諸会費	87,800
	リース料	8,115
	雑費	233,835
	備品譲受支出	15,478
	ラオス事務所経費	1,220,525
	家賃・水道光熱費	439,093
	通信費	45,003
	事務費・記録費	48,677
	人件費・交通費	400,657
	備品消耗品費	120,973
	諸会費	831
	雑費	165,291
予備費		0
当期支出合計		55,608,968
当期収支差額		9,056,507
次期繰越収支差額		14,362,089

プロジェクト運営

■出版

出版委員会を核に、多様な本の出版を継続します。

1) 出版委員会

- 調整役としての委員会の機能を強化する。
- 5名の委員で、年8冊の出版をコーディネートする。
- 編集出版業務の円滑化、効率化を図る。
- デザインワークの依頼先を複数化し質の向上を図る。
- 資料図書を備える。

2) 子どもの本の出版

- 8作品、各5,000冊を出版。うち1作品は海外文学作品の翻訳とする。
- 資金源を多元化し、2作品は現地で資金を獲得する。
- 長編コンクールにより作家の発掘、多様化を図る。

3) 本の流通システムの形成

- 他団体への有償譲渡を促進し収益を確保する。
- 出店の可能性を調査する。

■読書推進活動

1) 環境整備

JICAとの開発パートナー事業を軸に、読書推進活動の環境整備を継続します。

- 図書配付や学校図書室開設の基準を作成し、事業の効率化と成果の向上を図る。
- 図書箱(270校分)、図書袋(70校分)を製作。セミナー開催と共に小学校計340校に配付する。
- 状況に応じて、箱・袋など入れ物は支給せず本のみを配付することでコストを下げ、配付数を確保する。
- 配付済360校に図書を補充し活動を活性化する。
- 学校図書室(ハクアーン)を10校に開設。既設の125校へ図書を補充する。
- 紙芝居2作品を出版。メディア、教材として普及と活用をすすめる。

2) システム化と人づくり

活動の持続・自立へ向け、教員養成校を拠点とした人材育成とカリキュラム運用への支援を継続します。

- 教員養成校の講師養成セミナーを開催する。
- 県・郡の教育監督官の研修を行い、地方での活動の担い手の育成を強化する。
- 「読書推進ハンドブック」を改訂し、試用を行う。

- 各校図書館に図書を補充する。

- 評価会議により自主的な改善と問題解決を促す。

3) 普及・定着

子どもの読書と学校での図書活用を着実に定着させ、学校から地域へ、教育の場から生活の場へと普及すすめるため、次のことを行います。

- テレビ、ラジオ等の視聴状況を把握し、マスメディアによる啓発広報を検討する。
- 既に実施したラジオ番組の効果を検証する。
- 子どもによる絵本・作文コンクールを準備する。
- 積極的に活動している学校を表彰する。

■子ども文化センター

資金的支援からソフトの支援へ移行します。運営の持続と自立化のため、活動の担い手各層との理念の共有を深め、地域社会や父母との連携を促進します。その過程で子どもの権利への理解を広め、子どもの参加を促進し、プログラムの多様化と質の向上を図ります。

- 8館の運営支援を継続する。
- 青少年ボランティア活動の資金を支援する。
- 館長を対象に、運営や資金調達能力の向上のための研修を行う。
- ヴィエンチャン都教育活動開発センター竣工後に、ヴィエンチャンCCCを移管。都教育局職員の研修を行い、教員研修とリンクした運営を支援する。
- 子どもの権利を正確に普及させるため、館長、スタッフ、指導員への研修をおこなう。
- スポーツ、音楽などのプログラムに必要な支援を行う。

■CEDCへの対応

ラオスにおけるCEDC(特に困難な状況にある子どもたち)の状況を把握し、支援を模索します。そのためラオスで既にCEDCへの活動を行っている団体やグループとの連携を視野に入れ情報交換をすすめます。

■調査

子どもの実像を把握するため、図書配付時の子ども調査を継続します。調査結果の分析を行い、まとめた段階で公開します。

■特別プロジェクト

ラオス政府からの緊急支援要請により、資金調達ができた場合には、小学校の教科書印刷を支援します。その際、数少ない教科書がより有効に活用されるよう、配付と管理に読書推進の実績を活用します。

国内事業

■広報

- 各種広報ツールの位置づけを明確化し、目的に応じて多様化を図る。
- 年次報告書を日・英語で発行する。
- ニュースレターは年3回発行を継続。さらに読みやすく魅力的な誌面を工夫し、ラオス情報を充実させる。
- ホームページの全面刷新をおこない、より豊富な情報提供と頻繁な更新を行う。
- 新しいパンフレットの制作、英文サイトの立ち上げ、企業向けメールマガジン、訪問ツール、DMなどの開発、イベント用・ボランティア向け活動紹介ツールの開発など、昨年度できなかったことを実行する。

■イベント

- 会が主催するイベントを増やし、会のメッセージを対外的に発信する機会を増やす。外部イベントについては参加基準を作成し、戦略的に参加していく。
- ラオスで会が出版した本が100冊になったことを記念し「ラオスの絵本100冊展」(仮)を日本とラオスで開催。活動を広くアピールし、知名度を向上させる。

■ラオス語絵本プロジェクト

- 良質の本の提供、日本でより多くの方が参加できるプログラムとして、積極的に推進していく。
- 訳文を再チェックし質を上げる。
- 開発教育の視点からプログラムを活用する。

■書き損じハガキ収集キャンペーン

- メディアを活用し広く一般からの参加を図る。
- 継続的な参加につながるよう、協力者に有効な働きかけを行う。
- 50円ハガキ1万枚相当の収集を目標とする。

組織運営

■全体運営

昨年度に引き続き、「組織運営」の安定化と強化が課題です。文書化されたルールに則った運営を実践しながら検証し、より質の高い運営を目指します。

理事会 各理事の役割分担の明確化および増員により仕事量の平準化、低減をはかります。

会員 活動会員、賛助会員の20%増を目指します。

ボランティア 活動参加のガイドライン(ハンドブック)を作成し、ボランティアの役割、責任、自由に関する合意に基づいて、参加の質の向上を図ります。活動説明会を定期化し、新しい参加者の積極的な加入を図ります。ラオス人留学生との交流や説明の機会を増やし、会の理念を明確に伝えて理解、共有を図ることで、帰国後も連携できる関係を築いていきます。

運営会議 進行の効率化と論点の明確化により時間を短縮します。参加者の10%増をはかります。勉強会等、会員との幅広い知識の共有をすすめます。

中期計画 第3次中期三か年計画の年度ごとの実行計画の実行と目標達成をチェックし、計画を改訂していく作業を会員とともに行います。

ラオス事務所の参画 東京またはヴィエンチャンで定期的に会議を開き、ラオス側の意見を積極的に運営に反映させます。各プロジェクトでも、ラオス側参加による年度ごとの評価会議を行います。

■東京事務所

体制 専従職員2人＋無給事務局長での運営に加え、アルバイトの活用をすすめ、過重な労働の軽減、迅速な反応、問題解決への取り組みなどが行われるようにはかります。担当業務の明確化を進めます。人事考課の効果的運用について工夫と試行を重ねます。新人雇用にとめない、研修の機会を設定します。

資金調達 支援者の満足度をあげることで、個人の方のご寄付が増加するように努力します。そのため会員情報の整理、データベースの充実などが課題です。企業・団体などからのご支援に対する報告書の作成スピードと質を向上させます。新しい支援者を獲得するために、内容を絞った寄附メニューの開発・提案をおこないます。



■ラオス事務所

体制 ラオス人スタッフ7名、日本人スタッフ1人の体制で運営します。副所長候補の発掘を引き続き行い、業務の集中を改善します。9月に駐在スタッフが近藤知子から赤井朱子に交代します。また、NGO活動の理念の共有を深めるため、ラオス語で使命・理念・活動計画を文書化します。運営ルール、業務分担も文書化をすすめ、活動の透明性を確保します。

スタッフ研修 自立へ向け、プロジェクト運営能力、専門性を高める研修を行います。より高度な事務処理ができるよう教育し、東京事務所の負担を軽減します。

資金調達 英文・ラオス語文による活動報告書を充実させ、より積極的に外国政府機関、NGOなどの団体からの資金調達量を増やします。現地での資金調達額を昨年度の20%増を目標とします。

広報 各国NGOと連携したプロジェクト展開を増やすため、プロジェクト内容の広報を活発化します。プロジェクト別説明資料、年間活動報告書など、日本語・英語の広報資料を整備し、ラオスで活動するNGOを紹介するホームページにも情報を発信していきます。

イベント ラオス事務所においても、会の活動をラオスで広く認知してもらうために、子どもや、NGOに関わる各種イベントに、積極的に参加してゆきます。そのために、参加基準、訪問受入基準を早急に作成する必要があります。

対外活動 子どもの権利の普及などで、UNICEFや他団体との協働を積極的にはかり、活動の質の向上を図るとともに、子どもへのより効果的な働きかけが可能となるよう会のノウハウを提供し、ラオス社会での存在感を強めていきます。

2004年度 収支予算

第3期 2004年7月1日～2005年6月30日

特定非営利活動法人ラオスのこども

I 収入の部		(単位:円)
科 目	金 額	
会費・寄附金	7,575,000	
一般寄付金	4,000,000	
活動会員年会費	75,000	
指定募金	3,500,000	
助成金・補助金	38,700,000	
民間一般助成金	10,000,000	
政府系補助金・助成金	25,700,000	
補助金・助成金(現地受取)	3,000,000	
その他	4,500,000	
交流広報事業による収入	4,000,000	
雑収入	500,000	
当期収入合計	50,775,000	
前期繰越金	14,362,089	
収入合計	65,137,089	

II 支出の部		(単位:円)
科 目	金 額	
事業費	47,458,070	
出版事業費	4,642,550	
読書推進事業費	28,445,825	
子ども文化センター支援事業費	12,039,695	
交流広報事業費	2,330,000	
管理費	10,904,525	
東京事務所	9,601,000	
家賃・水道光熱費	558,000	
通信費・運搬費	169,000	
事務費・記録費	240,000	
人件費・交通費	7,584,000	
備品消耗品費	90,000	
広報費	620,000	
諸会費会場費	140,000	
雑費	200,000	
ラオス事務所	1,303,525	
家賃・水道光熱費	365,700	
通信費	48,300	
事務費・記録費	69,000	
広報費	5,750	
人件費・交通費	449,075	
備品消耗品費	124,200	
諸会費	34,500	
雑費	207,000	
予備費	1,500,000	
当期支出合計	59,862,595	
次期繰金	5,274,494	

2004年度役員

理事 チャンタソン インタヴォン(共同代表)

森 透(共同代表) 塩谷 光 風間美苗

野口朝夫 小川直美

監事 森 千也 野口賢一

中期三か年計画

第3次 2004年7月1日－2007年6月30日

- プロジェクト** ●この3カ年は、「システム化」（活動の定着・普及）と「人づくり」（ラオス側担い手の能力向上）の両面から、プロジェクトの自立化を具体的に進めていく。
●プロジェクトの立案と運営に当たっては、子どもの参加とアカウンタビリティに留意する。

プロジェクト	活動目標	活動計画
■出版		
絵本	出版委員会を核に、絵本の量、質、多様性の向上を図る。 出版資金源の多元化、現地化を進め、出版活動の安定化を図る。 社会への普及を促進するため、都市部で本の流通システムの形成に着手する。	将来の出版社化を見据え、編集、アートデザイン、作家へのアドバイザーとしての機能など、出版委員会の活動を強化する。 多様な種類の本をバランスよく出版する パートナーを得て販売の態勢づくりを行い、本屋1号店を出店する。
紙芝居	自己表現としての制作、教育メディアとしての活用を普及し、定着を促進する。	印刷紙芝居の出版と、自主制作の奨励の両面から普及を図る。
■読書推進 環境整備	本に触れる機会がより少ない子どもたちへ新しく図書を配付する。 配付の効率と効果を高める。 補充に力をいれ、読書環境の維持と定着をすすめる。 大規模校では既存の箱・袋から常設の学校図書室への転換をすすめる。	配付基準を設け、より本を必要とする学校、より高い効果が見込める学校を重点対象とする。 配付済みの2300校に計画的に補充する 学校図書室（Hak Arn）の開設と補充を行う
持続・自立のためのシステムと人づくり	教員養成校を読書推進の人材育成の拠点として位置付け、読書推進の公的システム化を進めるとともに、運動の担い手の育成を強化する。	小学校でのカリキュラム化を推進する 郡の教育指導官を、読書推進の担い手として育成する 教員養成校でのカリキュラム化を促進し、セミナーの充実を図る
普及と定着	図書の活用と読書活動の学校教育への定着を確かなものとする。 さらに、学校から地域へ、教育の場から生活の場へと、普及・定着を進める。	教員への働きかけを強め、意欲を高める 子どもへの働きかけを強め、意欲を高める
■子ども文化センター	「子どもの居場所」「自己表現・自己実現の場」としてラオス社会に定着し、持続可能な運営を行うための態勢整備を行う。 その過程で、子どもの権利についての理解を広め、センターでの活動と運営において、子どもの参加を促進する。 運営の資金的支援からソフトの支援へ転じ、子どもに提供するプログラムの質をさらに向上させる。	8館への支援は継続するが、予算は増額せず総額を維持する 館長の運営能力、資金調達能力を高める スタッフの、子どもへの接し方や子どもとの協働に関する能力を高める プログラムの多様化 各プログラムの質の向上 プログラムや運営への子ども参加 地域や家庭との連携を深める 教員研修との連携で、子どもの居場所・活動の場の普及を図る。
■自立支援 青少年支援	青少年の自立支援の方法を模索する	青少年の居場所の形成に取り組む 現状把握、支援のニーズやカウンターパートについて情報収集を行う
特に困難な状況にある子どもたち（CEDC）	CEDCへの支援の方法を模索する	現状把握、支援のニーズやカウンターパートについて情報収集を行う
■調査	子どもの実態を把握し、プロジェクト形成・実施に活用する	学校、地域、学校外、CEDC、少数民族などの子どもの現状を把握する

- 組織運営** ●ラオス事務所の「自立」「現地化」へ向けた組織の基盤づくりと人材育成を行い、運動を支える人的・経済的資源の確保を図る。
●その過程で、アカウンタビリティ＝協治の確立をめざす。

組 織	運営方針／改善重点	運営計画／改善計画
■運営		
組織基盤	意思決定、組織運営、業務遂行の各レベルで能力の向上を図り、組織基盤を強化する。	マネジメント機能の向上 理事会の強化 賛助会員を年間20%増やす
現地化	東京／ラオス、会員／ボランティアの間で、現地化の理念とプロセスを共有する。	自立のイメージ、道筋の共有 アカウンタビリティの理解と推進 ネットワークづくりの推進
■東京事務所		
事務局体制		マネジメント能力の強化 業務の効率化 スタッフ能力の向上
人的基盤	会員・ボランティア・ラオス人留学生と理念を共有し、継続的で主体的な参加を促進。参加人数と参加度の両面から、運動を支え・担う人的基盤の強化を図る。	活動会員を年間20%、運営会議への参加者を年間10%増やす ボランティアの主体的参加の拡大 ラオス人留学生との理念の共有化と協働関係の形成
資金調達	組織としての資金調達能力の向上を図り、財政基盤を強化する。	企業など外部への働きかけを強める イベント収益の向上、収益事業の開発 書き損じハガキキャンペーン 広報、働きかけの強化
広報	戦略的な広報活動により、社会的認知および会員のモチベーションを高める。	広報ツールの整備、広報機会の創出
情報発信	ラオス情報の収集と発信により、国内での当会の存在感を強める。	ラオス情報の収集・蓄積、編集・発信を行う
ネットワーク	組織運営、事業展開の効果を高めるためにネットワークを活用する。	分野別専門家ネットワークの形成 海外ネットワークの形成 地域との連携を強める
国内事業	会のメッセージを発信する機会を増やし、国内での会の認知度を高め、理解を広げる	自主開催イベントを増やす。 外部イベントへは基準を設けて選択参加し、効果を高める。 ラオス語絵本プロジェクトを強化し、ラオスの絵本の多様性確保に寄与する 開発教育
■ラオス事務所		
組織基盤	現地化へ向けて、運営と事業の能力強化を図り、組織基盤を整備する。	理念の強化 組織運営能力の向上 スタッフの能力向上
財政基盤	持続的な組織運営のための財政基盤を整備する。	現地資金調達額を前年度費20%増 事業予算実行の精度を高める
広報	ラオス社会や海外団体への広報により、存在感を強める。	海外団体、国際機関等への活動紹介 子ども・地域向けの事業広報
情報発信	東京に替わって情報発信の主体となれるよう、能力・機能を強化する。	ラオス情報の収集、活動の記録、蓄積、加工のための機能整備



□東京事務所

〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12,303

TEL/FAX 813-3755-1603

E-mail deknoylao@nifty.com <http://deknoylao.org>

□ラオス事務所

035/3 NOUAI 05 SAMSENETHAI RD. SIHOM CHANTHABURY,
VIENTIANE LAO P.D.R. P.O.BOX1518

TEL/FAX 856-21-21-3449

E-mail [aspb @ laotel.com](mailto:aspb@laotel.com)